

権利擁護／虐待防止

事例検討編①

①「明らかな虐待行為」と「グレーゾーンな行為」

日総研介護人財

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、「虐待行為とはどういうものであるのか」について考える入り口として活用していただきたい。

難易度はそれほど高くはないが、しっかり考えていくことが大切である。

日総研介護人財

研修の進め方①

まずは、次の事例を読み上げます。

日総研介護人財

事例(ある職員Aさんの声)

居室訪問したら、便失禁をしている利用者Bさんがいました。リハビリパンツを脱ごうとしたのか両手は便まみれになっていて、服や布団、ベッドや床など本人が触ったところがベタベタに汚れていました。

急いで本人についた汚れを拭き取って着替えさせようと思いました。その際に爪で引っかかれたり、髪の毛を引っ張られたり、時折足も出て蹴りもありましたが、それでもやり返すことはせず、Bさんの腕を掴みながら必死でなんとか陰部清拭と着替えを行いました。

ただ、「痛いって！やめて！こらっ、おとなしくしなさい！」と言いながらBさんを押さえつけているところを主任に見られてしまいました。

さらにBさんの腕を押さえつけた時にBさんの腕に内出血ができてしまいました。

日総研介護人財

事例(続き)

主任からヒヤリハット報告書を書くようにと言われましたが、その時に主任から「ちゃんときちんと声かけしたの?」「本人が嫌がっているのに無理やり着替えさせたの?」「相手は認知症なんだから、少々のは仕方ないことだからね」「〇〇さんも無理矢理やられて、きっと怖かったんだろうと思うよ。それって、専門職としてどうなの?」と責められました。

ちゃんと声かけてからやったつもりです。それよりも主任の言うとおりにしていたら、便だらけになってるのに、嫌がられたらきれいにしてあげることも着替えもしてあげずにほっとけということなのかと思ってしまう。

そのくせ少しでも対応が遅れたら遅れたで「なぜちゃんと見なかった?」と責めるのに。

利用者さんに対する暴力は絶対いけないけれど、私たち職員のこと大事に思ってくれるような職場じゃないとやってられないです。

研修の進め方②

次の質問を参加者に投げかけます。参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

①明らかに虐待であるであると判断できる行為は何だと思えますか?

※うまく答えが出てこない場合は、「身体的虐待はないですか?」と投げかけます。

②虐待であるかどうか判断に迷う「グレーゾーン」の行為(「不適切なケア」)は何だと思えますか?

※うまく答えが出てこない場合は「心理的虐待はないですか?」と投げかけます。

個人ワーク(10分)

職員Aさんはどのような虐待をしたと
思いますか？

職員Aさんがしたと思われる虐待行為について、整理しましょう。

1)明らかに虐待であると判断できる
行為は何だと思いますか？

2) 虐待であるかどうか判断に迷う
「グレーゾーン」の行為(「不適切なケア」)は何だと思えますか？

研修の進め方③

参加者に答えてもらった後、グループワークに入ります。

グループワークのテーマ・・・「この事例において何が問題であるのか？」

・参加者はそれぞれ自分が感じている問題点について意見を出し合い、話し合っていきます。

☆このグループワークのねらいは、虐待行為は日常業務の中で起こり得るものであるということを一人ひとりに感じてもらうことです。

そのために、「正解は〇〇だ」ということを決めていくことではありません。

* グループワークをしている中で、話題が全く違うものへとずれていかなければ、話し合っている内容を修正する必要はありません。話し合いをしていく中で、自分たちの職場で起きうる虐待行為についての意見交換や過去にあった虐待行為についての情報交換になることが多くなると思われます。

グループワーク(20分)

3)この事例から何が問題なのか話し合ってみましょう。

研修の進め方④

- ①話し合いが終わったら、各自でワークシートに「虐待行為」と「グレーゾーン」に分けて記入してもらいます。
- ②記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。
- ③ワークシートを回収して、全員の考え方を整理して、フィードバックして、研修は終了です。

個人ワーク(10分)

4) ワークシートに「虐待行為」と「グレーゾーン」に分けて記入しましょう

この教材を終えるにあたって

この研修には「正解」はありません。「虐待行為とはどういうものなのか」について考えてもらうことが目的だからです。

人によってとらえ方が違うことも理解できたらこの研修は成功です。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行

財団法人 総合研